

問 防災無線の高度化の方針は

答 多重化と新技術で情報強化を図る

問 近年、災害が多様化し激甚化する中で、災害時の情報伝達体制を強化することは、村民の命と安全を守るために重要だ。従来の防災無線だけでなく、スマートフォンやテレビ、インターネット、LINEなど多様な手段を活用し、誰一人取り残さない防災情報の伝達体制を今後どのように整備し、進化させていくのか、方針を伺う。

答 防災行政無線（屋外スピーカー等）の老朽化を受け、昨年度から新しいデジタル機器の導入や屋外放送塔の見直しを進めている。



スマートフォンなど多様な手段で防災情報発信へ

る。今後はSNSやスマートフォンなど各種媒体を活用した災害情報発信のさらなる多重化を図る。将来的には、ケーブルテレビや地域BWA（地域広帯域移動無線アクセス）など新たな通信手段についても課題や必要性などを整理し、地域の特性を踏まえた事業展開を図ることが重要であると考えている。地域BWAの活用にはコストや連携可能なサービスについて十分な検討が必要であり、関係部局とも連携・検討していく。



新政とうかい
まつえ ひであき 議員
松江 秀明

問 休日診療の当番医体制は維持できるか

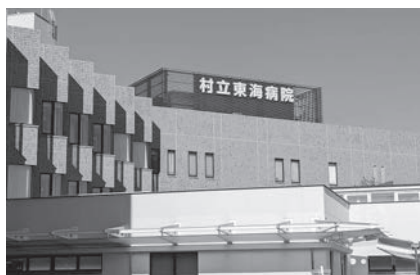
答 制度そのものの維持が厳しい状況

問 本年8月末で東海クリニックが閉院となり、住民の中で不安の声が広がっている。休日診療の当番医体制の現状と今後の課題は。

答 現在、村内6つの医療機関の協力により、輪番制による当番医として日曜・祝日、年末年始を併せて、令和7年度は年間71日開設している。しかし、医師の高齢化や後継者不在等による協力医師の減少が進むことで、各医療機関の当番日数が増加しており、休日診療制度そのものの維持が厳しい状況である。



新政とうかい
おち たつや 議員
越智 辰哉



休日診療全体の35%の日数を対応している村立東海病院

問 すでに休日診療全体の約35%もの受け入れに対応頂いている現状ではあるが、本村の地域医療を支える拠点施設である村立東海病院に対して、さらなる受け入れ枠の拡大について、協力依頼すべきではないか。

答 村立東海病院では、当番回数を多く負担して頂くなど尽力いただいているが、今後のより厳しい状況に鑑み、一層の受け入れ体制の確保について、ご理解ご協力いただけるよう調整していく。